

## 式辞

厳しかった冬の寒さも和らぎ、春の光が大地に満ち、校庭の木々、桜の芽も膨らみ始め、肌をなでる風にも、春の暖かさが感じられる、今日のよき日に、

ご来賓のみな様方のご来賀のもと、

本校第67回卒業式を挙行できますこと、卒業生と共に喜び、感謝申しあげたいと思います。

公私何かとご多用にもかかわりませず、卒業生の祝福に

駆けつけて頂き、新たな旅立ちに華を添えていただきましたこと、御礼申しあげます。

保護者のみな様、お子様のご卒業、おめでとうございませす。

3年前、69期生として、吉中学校の門をくぐられた時は幼かったお子様が、今、こうして心身ともに、逞しく成長されました。

その姿を目の当たりにされさぞお喜びのことと存じます。子どもから大人への「架け橋」ともいえる、多感なこの

時期、お気遣いや、ご苦勞があつたことと、お察し申しあげます。

保護者のみな様には、3年間、本校の教育の推進に、ご支援・ご協力をいただき、心よりお礼申しあげます。

お子様の卒業後も、住吉中学校を、温かく見守って頂きますよう、お願い申しあげます。

さて、卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。113名の卒業生に卒業証書をお渡しいたしました。

9年間の義務教育を終え、  
経済活性化、平和憲法改正、  
テロの脅威等々、大きな課題  
が山積している日本、そして、  
国際社会に向けて、旅立つ日  
を迎えることにな  
りました。

君たちは、これから  
の日本を  
支える、  
大切な宝物です。  
しっかりと  
した、目標を  
持って、前  
に前にと、  
進んで欲しい  
と願っています。

また、みなさん一人ひとりの  
胸中には、

住吉中学校の、三年間の数々の思い出が、  
走馬灯のように、駆け巡っていることと思います。

私は、君たちとは2年間の付き合いです。が、今、君たちを送り出すことに、感慨深いものがあります。

この2年間は、私にとっても、素晴らしい出会いがあり、たくさんの思い出がありました。

2泊3日、長崎への修学旅行、  
美しい海でのペーロン大会、

夜の聞き取り学習、平和セレ  
モニ―。

長崎市内の散策も、思い出  
の一つになりました。

長崎駅前での、迫力一杯の  
「蛇踊り」発表には、通りが  
かりの人が多く足を止め、感  
動されていました。

体育大会も忘れてはなりま  
せん。

体育大会は、集団育成にとつ  
て、大切なものと位置づけて  
います。

### 3年生の学年演技

「組体操」は、見るものに感

動を与え、胸を張り誇れるものでした。

1・2年のときから集団作り  
を大切に考え、生徒たちの自  
主性を尊重し、「生徒が主役」  
の体育大会を目指し練習をし  
てまいりました。

その結果、あなた達の演技  
は、昨年の卒業生に、勝ると  
も劣らない内容でした。

「なかま」を感じられた瞬間  
ではなかったでしょうか。

文化祭も、素晴らしい物が  
できました。

修学旅行でやり残した物を、

総合芸術として、舞台上で発表  
することができました。

みんなで協力することの、  
大切さがわかったことと思っ  
ます。

地道な活動の積み重ねが、伝  
統を育み、住吉中学校の「真  
の力」となつていきます。

苦しかった部活動、

夏の暑さ、冬の厳しい寒さ、  
しんどくつらい練習に耐え、  
大きく成長した

君たちを見てみると、「よく頑  
張ったね」と、心の中で、君  
たちの頑張りを褒めていまし



た。

みなさんにとっても、今となつては、  
良い思い出として、残っている  
ことでしよう。

伝統ある、この住吉中学校、  
君たちが繋いだものが、誇り  
となり、自信となつて、生き  
続けるよう、在校生と共に、  
守り育てて行きたいと考えて  
います。

これから自分たちの、生  
きていく街・地域を大切にし  
てください。

69期生のみなさん、そろ

そろ別れの時が来たようです。  
最後にみなさんに1篇の詩  
を送りたいと思います。

これから紹介する詩は、私の  
好きな童話作家、小泉吉宏（こい

ずみよしひろ）さんの

「一秒の言葉」という詩です。

「はじめまして」

この一秒ほどの短い言葉に  
一生のときめきを感じる

ことがある

「ありがとう」

この一秒ほどの短い言葉に  
人の優しさを知る  
ことがある

「がんばって」

この一秒ほどの短い言葉で  
勇気がよみがえってくる  
ことがある

「おめでとう」

この一秒ほどの短い言葉で  
しあわせにあふれる  
ことがある

「ごめんなさい」

この一秒ほどの短い言葉に  
人の弱さを見る  
ことがある

「さようなら」

この一秒ほどの短い言葉が  
一生の別れになる

ことがある

一秒に喜び　一秒に泣く

一生懸命一秒

私たちは一秒の一つの言葉で、どれだけのことを伝えることができるでしょうか。

一秒に込められた気持ちや伝わってくるとても素敵で優しく、私の大好きな詩の一つです。

先生は、集会のたびにあいさつの話を  
してきました。

あいさつの大切さとともに重

要さをみなさんに伝えてきたつもりです。

また、先生の好きな言葉の「一瞬懸命」

（一瞬一瞬に一生懸命全力を尽くす）も

お話したことがあると思います。

いつも使うこれらの日本語こそ、私たちが忘れてしまった美しい日本語のような気がします。

言葉は、自分と人とをつなぐ大切なものです。

「ありがとう」

これほど美しい日本語はない  
と思います。

「さようなら」

これほど心に響く日本語はな  
いと思います。

言葉は、人を幸せにしたり  
不幸にしたりします。

人を幸せにする言葉をたく  
さん使いたいものです。

長くなりました。

新しい世界に旅立つみなさ  
んと、この住吉中学校で生活  
したこと、ともに汗を流した  
こと、そして、「人にやさしい  
教育・人にやさしい住吉中生

を育てる」を、  
一緒に学んだことを、「チーム  
住吉」を  
誇りに思っています。

それでは卒業生のみなさん、  
みなさんの青春の思い出一  
杯詰まった、この住吉中学校  
を、忘れないでください。  
みなさんの未来が、輝かし  
く、幸多いことを心より祈念  
して、式辞といたします。

2016年3月11日

大阪市立住吉中学校

校長 村瀬香織